

第1回 県立高等学校改革懇談会 『白河実業・埴工業・修明』

日時：令和元年 7月26日（金） 14:00～15:30

場所：白河実業高等学校 会議室

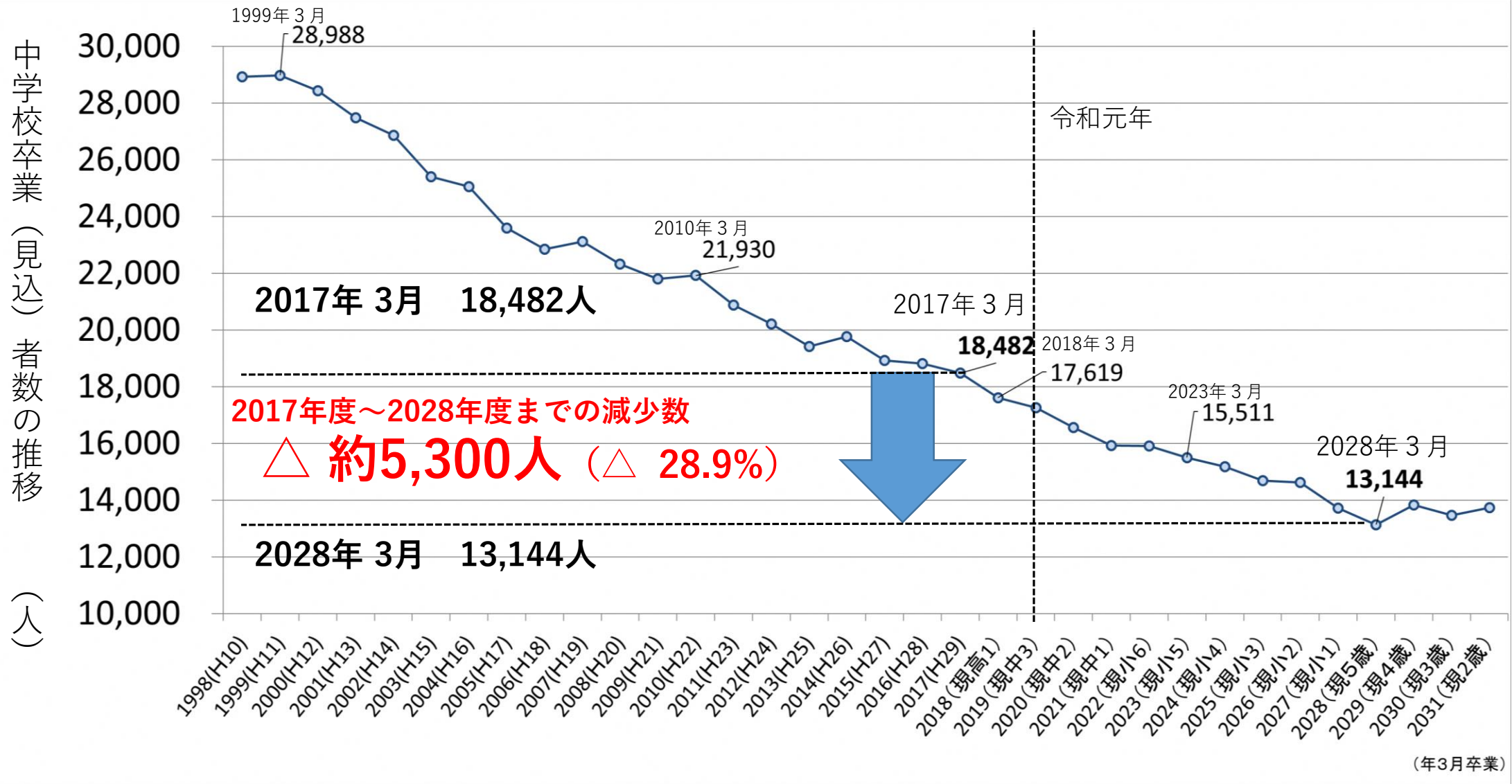
福島県教育委員会

本日の進め方

I	県立高等学校改革前期実施計画策定の経緯
II	白河実業高校と再編整備対象2校における現在の状況
III	今後の再編整備の方向性について

Ⅰ 県立高等学校改革前期実施計画 策定の経緯

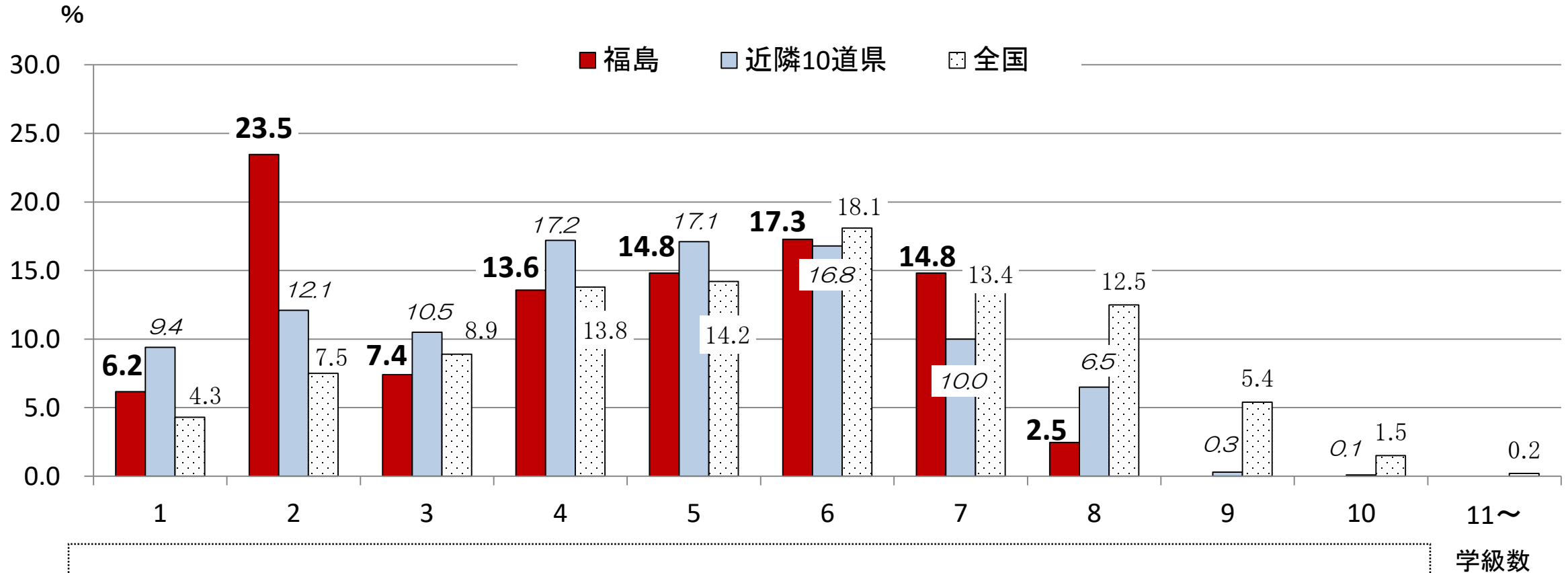
1 少子化の進行（中学校卒業見込者数の減少）



出典：2017年（平成29年）までは福島県企画調整部統計課編各年度の「学校基本統計（学校基本調査報告書）」から作成。
 2018年（平成30年）3月～2026年3月までは同調査における各学年の在籍者数をもとに作成。
 2027年3月以降は同課提供「福島県の推計人口」（2017年4月1日現在）の各年齢別のデータをもとに作成。

2 県立高等学校の小規模校化

1学年当たりの学級数で見た学校規模の比較（福島県・近隣10道県・全国）



出典・「平成30年度全国公立高等学校第1学年定員等状況」(富山県教育委員会調べ)をもとに作成。
分校を含む2018年度（平成30年度）都道府県立高等学校全日制課程の募集定員。近隣
10道県は、北海道、本県を除く東北5県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県。

3 本県の高等学校教育を取り巻く様々な動き

本県をめぐる社会情勢の変化

- 人口の減少・**少子化のさらなる進行**
(中学校卒業予定者数が10年間で約5,300名減少)
- 過疎化・高齢化
(地域コミュニティの維持が課題)
- 高等学校教育を取り巻く状況の変化
(例: 学習指導要領の改訂、大学入学共通テストの導入)
- 高等学校の小規模化
(3学級規模以下の高校の増加)
- 生徒の**学習ニーズの多様化**
(学ぶ意欲や目的意識、興味、関心、進路指導の多様化)
- **東日本大震災と原子力災害からの復興・再生**
(本県の復興に関わりたいという思いの芽生え、福島イノベーション・コースト構想の推進)



高等学校改革の必要性

県立高等学校改革計画「**第一次まとめ**」(平成9年)・「**第二次まとめ**」(平成11年)

福島県学校教育審議会 2017年(平成29年度) 答申
「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」



県立高等学校改革基本計画の策定 2018年 5月
(2019年度～2028年度) 10年間

県立高等学校改革**前期**実施計画 (2019年度～2023年度) 5年間

県立高等学校改革**後期**実施計画 (2024年度～2028年度) 5年間

4 県立高等学校改革の基本方針

基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくりを推進すること」

【4つの基本方針】

- 基本方針 1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力を育む
高等学校教育の推進
- 基本方針 2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上
- 基本方針 3 **学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化**
- 基本方針 4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の
向上

再編整備・魅力化の基本的な考え方①

○学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模（1学年4～6学級）

1学年3学級以下の高等学校については、学校の魅力化を図りながら都市部も含めて統合を推進

○望ましい学校規模への再編整備の推進

同一市町内や隣接する市町にある複数の学校のいずれかもしくは双方の学校が望ましい学校規模を維持できない場合に統合を推進
望ましい学校規模の中で可能となる魅力化の推進

再編整備・魅力化の基本的な考え方②

- 進路に応じた特色ある高等学校の配置
- 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- 学校の特色化と情報発信

6つの学校群

進学指導拠点校

進学指導重点校

キャリア指導推進校

職業教育推進校

地域協働推進校

定時制・通信制高校

5 再編整備による効果 ①

○ 一定の集団規模を確保した望ましい学校規模の確保

- ⇒ 仲間との切磋琢磨の中で**向上心**を高められる
- ⇒ 新しい学力観のもと、**探究的・協働的な学びを充実**させることができる
- ⇒ **教員数**が確保され、生徒の進路希望に応じた**多様な選択科目**が可能となる
- ⇒ **部活動**の選択肢も広がる

充実した教育活動に

5 再編整備による効果 ②

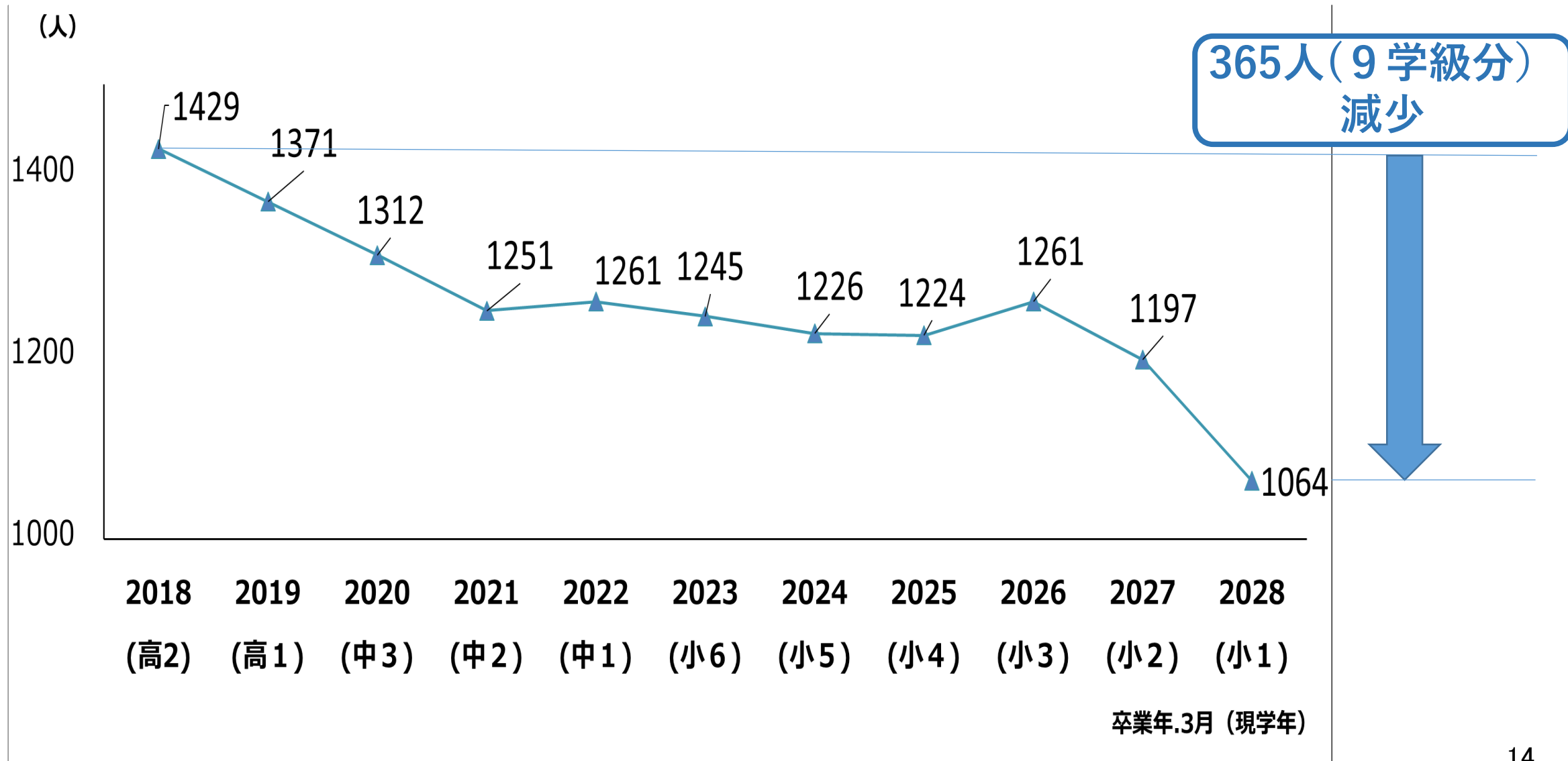
○ 学科の集約による職業教育の充実

- ⇒ **専門教員が一定数確保**され、より専門性の高い学びが可能となる。
- ⇒ **施設設備の集中的な活用**によって、専門的な知識・技能の高度化に対応できる。
- ⇒ 地区の農業科の拠点、工業科の拠点として、**より広域的に地域の産業界との連携**が可能になる。

II 白河実業高校と再編整備対象2校における現在の状況

6 県南地区の児童生徒数（中学校卒業見込者数）の推移

H30年度学校基本調査・福島県の推測人口より



7 学校の沿革概要等

白河実業高校

○ 沿革（創立92周年）

- ・昭和 2年 5月 白河町立福島県白河商業学校開校
- ・昭和19年 4月 戦時措置により白河町立福島県白河農学校となる
- ・昭和23年 4月 学制改革により白河町立福島県白河農業高等学校となる
- ・昭和27年 7月 現校舎敷地内に移転
- ・昭和28年 4月 県立移管となり、福島県立白河農業高等学校と改称
- ・昭和34年 4月 福島県立白河農工高等学校に改称（農業科、機械科、家庭科）
- ・昭和54年 4月 福島県立白河実業高等学校に改称（農業科、機械科、電気科、商業科、家政科）
- ・平成29年10月 創立90周年記念式典挙行

○ 設置学科（平成31年度現在）

全日制 1学年学級 計6学級

- ・ 農業科 1学級
- ・ 機械科 2学級
- ・ 電気科 1学級
- ・ 電子科 1学級
- ・ 情報ビジネス科 1学級

○ 面積 敷地総面積 125,149m²

校舎敷地 41,064m² 実習地等 61,726m² 運動場 22,358m²

8 他の再編整備対象2校の沿革概要等

塙工業高校

○ 沿革（創立71周年）

- 昭和23年04月 福島県立東白川農業高校の定時制課程 塙分校として設立
- 昭和23年07月 福島県立塙高等学校となる（定時制課程 農業科 家庭科 翌年普通科も設置）
- 昭和26年07月 現在の台宿字北原に移転
- 昭和45年04月 福島県立塙工業高等学校に改称（機械科 2学級 電気科 2学級 電子科 1学級）
- 平成30年10月 創立70周年記念式典挙行

○ 設置学科（平成31年度現在）

- 全日制 1学年 2学級 計 6学級
- ・ 機械科 1学級
 - ・ 電子科 1学級

○ 面積 敷地総面積 42,411㎡

運動場・その他 36,820㎡

建物敷地 5,590㎡

修明高校

○ 沿革（修明高校 創立10周年）

- 明治41年04月 東白川農商高校前身の郡立農蚕学校創立
- 大正13年04月 棚倉高校前身の棚倉町実科高等女学校創立
- 平成21年04月 2校を統合し、福島県立修明高校を開校
- 平成31年 創立10周年

○ 設置学科（平成31年度現在）

全日制 1学年 4学級 計 13学級

- ・ 文理科 1学級
- ・ 生産流通科 1学級
- ・ 食品科学科 1学級
- ・ 情報ビジネス科 1学級
- ・ 経営マネジメント科
- ・ 情報マネジメント科（第3学年のみ）

○ 面積 敷地総面積 132,837㎡

校舎敷地 51,637㎡

実習地 68,387㎡ 運動場 12,251㎡

9 入学状況

【白河実業】

年度	2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	3 1
募集定員	2 4 0 (農業 4 0 ・ 機械 8 0 ・ 電気 4 0 ・ 電子 4 0 ・ 情報ビジネス 4 0)										
入学者数	240	237	240	239	235	227	231	238	238	232	224
農業	40	40	40	40	39	40	40	40	40	40	40
機械	80	80	80	80	79	79	80	79	80	75	79
電気	40	40	40	40	37	35	40	40	40	37	35
電子	40	40	40	40	40	33	40	40	38	40	40
情ビ	40	37	40	39	40	40	31	39	40	40	30
充足率 (%)	100	<i>98.8</i>	100	<i>99.6</i>	<i>97.9</i>	<i>94.6</i>	<i>96.3</i>	<i>99.2</i>	<i>99.2</i>	<i>96.7</i>	<i>93.3</i>

10 他の再編整備対象2校の入学状況

【埴工業】

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
募集定員	120 (機械80・電子40)				80 (機械40・電子40)						
入学者数	88	83	82	74	66	71	62	62	57	40	43
機械	63	55	55	54	39	37	37	37	36	32	32
電子	25	28	27	20	27	34	25	25	21	8	11
充足率 (%)	73.3	69.2	68.3	61.7	82.5	88.8	77.5	77.5	71.3	50.0	53.8

10 他の再編整備対象2校の入学状況

【修明】

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
募集定員	240 (文理80生産流通40食品科学40経営ビジネス40情報マネジメント40)			200 (文理40生産流通40食品科学40経営ビジネス40情報マネジメント40)						160 (文理40生産流通40食品科学40情報経営ビジネス40)		
入学者数	219	199	186	176	162	150	168	154	132	128	125	
文理	64	56	34	33	28	15	29	29	19	22	16	
生産流通	40	40	40	39	39	37	37	38	39	34	38	
食品科学	40	40	40	40	40	37	38	36	33	37	36	
経ビ	39	37	37	35	25	34	36	30	21	35 経営ビジネス科	35	
情マ	36	26	35	29	30	27	28	21	20			
充足率 (%)	<i>91.3</i>	<i>82.9</i>	<i>77.5</i>	<i>88.0</i>	<i>81.0</i>	<i>75.0</i>	<i>84.0</i>	<i>77.0</i>	<i>66.0</i>	<i>80.0</i>	<i>78.1</i>	

1 1 白河実業高校の教育活動

(学校案内より)

農業科

- 草花、果樹、野菜、作物、畜産等の
基礎的な学習
- コンピュータやバイオテクノロジー
- J-GAP取得
 - ※ 農業クラブ活動・・・意見研究発表会、農業鑑定競技大会、
家畜審査競技大会などへの出場
 - ※ 地域貢献活動・・・花いっぱい運動や地域行事への参加

工業科

機械科

- 機械工作、製図、機械設計、原動機など、ものづくりの基礎的な学習
- CADやNC旋盤、マシニングセンタなどの豊富な実習

電気科

- 電気基礎、電子技術、電気機器、電力技術など電気技術者として必要な専門知識や技術習得のための学習
- 第二種電気工事士（国家資格）取得に向けた指導

電子科

- 電子回路、ソフトウェア技術、電子計測制御など、電子関係分野の技術者として必要な専門知識や技術習得のための学習
- 計算技術検定、パソコン利用技術検定等取得に向けた指導

情報ビジネス科

- **ビジネス基礎、簿記、財務会計、原価計算、ビジネス情報、電子商取引などの専門知識の習得**
- **ビジネスマナーやコミュニケーションスキルの育成**

充実したキャリア教育により、地域の産業を支えるプロを育成

熱心な資格取得指導

- ・ 日本農業技術検定 3 級
- ・ 第 1 種・第 2 種電気工事士
- ・ 機械製図検定、技能検定 3 級
- ・ ジュニアマイスター顕彰
- ・ 全商簿記 1 級、全商情報処理 1 級 など

産業現場実習

県南地区の広域の企業へのインターンシップにより、職業観・
勤労観の育成

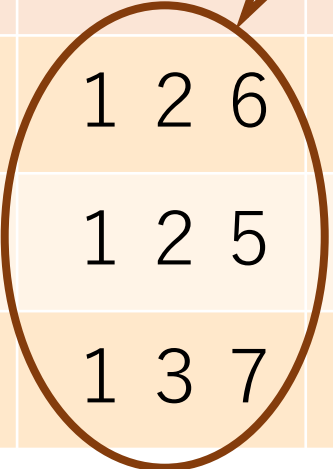
1 2 進路状況 (過去3年間)

学校要覧より

【白河実業】

進路先 卒業年度	進路先			就職			合計
	大学	短大	専門学校	計	県内	県外	
28	25	3	33	150	126	24	211
29	16	4	48	154	125	29	222
30	16	3	46	167	137	30	232

8割以上が
県内に就職



工業分野 (製造業、建設業等) 7割
事務、販売、サービス 1.5割

1 3 他の再編整備対象2校の進路状況（過去3年間） 学校要覧等より

【埴工業】	進路先			就職			合計
	卒業年度	大学	専門学校等	計	県内	県外	
	2 8	1	1 2	4 9	3 9	1 0	6 2
	2 9	1	8	4 8	4 1	6	5 7
3 0	2	1 1	4 8	4 3	5	6 1	

【修明】	進路先				就職			合計	
	卒業年度	大学	短大	専門学校	計	県内	県外		その他
	2 8	2 0	1 0	3 7	6 8	5 7	1 1	3	
	2 9	1 9	1 1	3 7	9 4	7 2	2 2	1	1 6 2
3 0	1 9	4	4 7	7 4	6 5	9	3	1 4 7	

14 部活動の比較

※ アンダーラインの付いた部活動は、
白河実業と共通または類似の内容のもの

【白河実業高校】

- 運動部
陸上競技 野球 バレーボール
バスケットボール バドミントン
ソフトテニス 卓球 柔道
自転車競技 水泳 剣道
テニス バドミントン
サッカー
※ ソフトボール (休部)
- 文化部
ブラスバンド 演劇
コンピュータ 合唱 園芸
工作 電気 写真 茶道
華道 商業研究 美術

【塙工業高校】

- 運動部
野球 サッカー
ソフトテニス 卓球
バスケットボール
格技 (柔道・空手)
格技 (剣道・銃剣道)
- 文化部
電機 吹奏楽 華道
和太鼓
生徒会ボランティア
工業クラブ

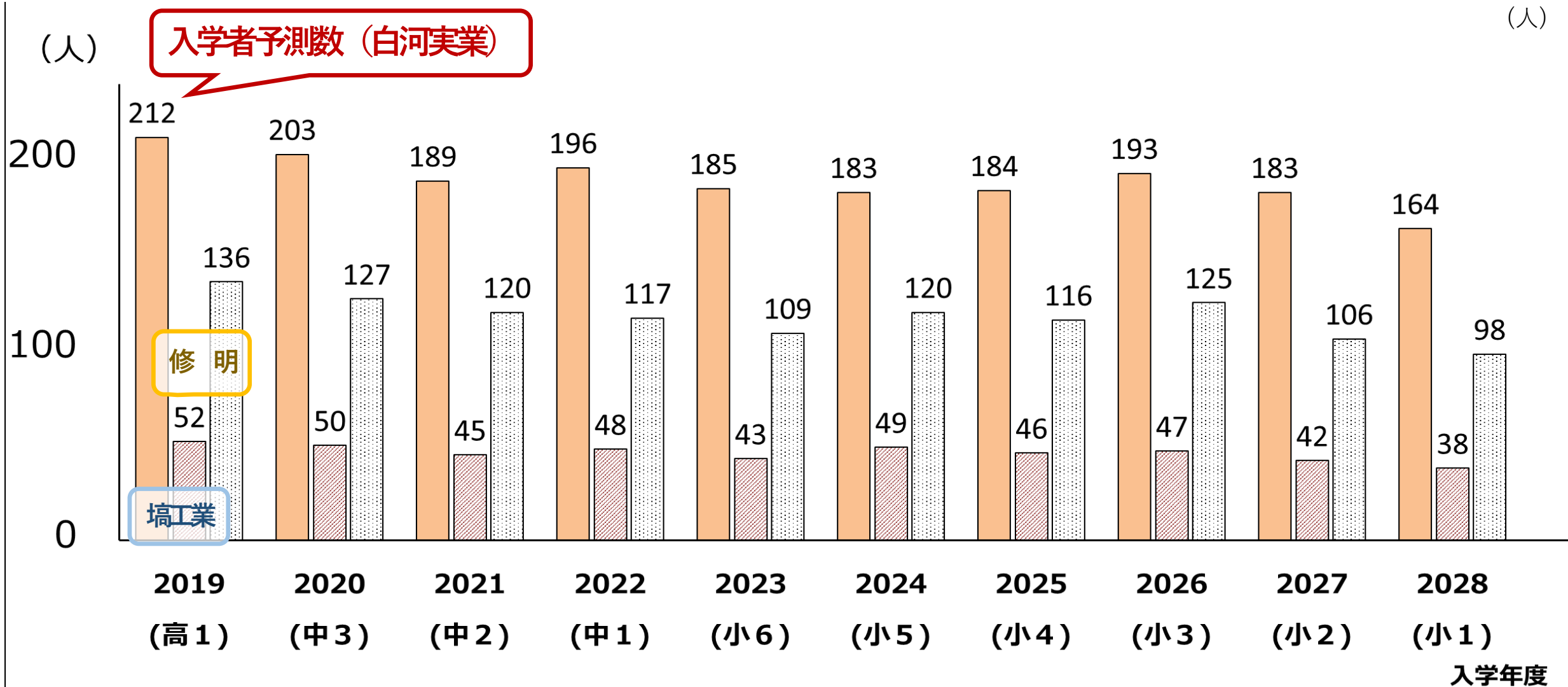
【修明高校】

- 運動部
陸上 野球 バレーボール
バスケットボール
バドミントン ソフトテニス
卓球 自転車競技
ホッケー バドミントン
※ ソフトボール (休部)
- 文化部
吹奏楽 科学 情報処理
華道・茶道 ボランティア
コーラス 美術
特設農業科 特設商業科
特設文理部

15 再編整備対象校の入学者数の予測

(平成26年度～平成30年度までの入学者の割合の平均をもとに算出)

(人)

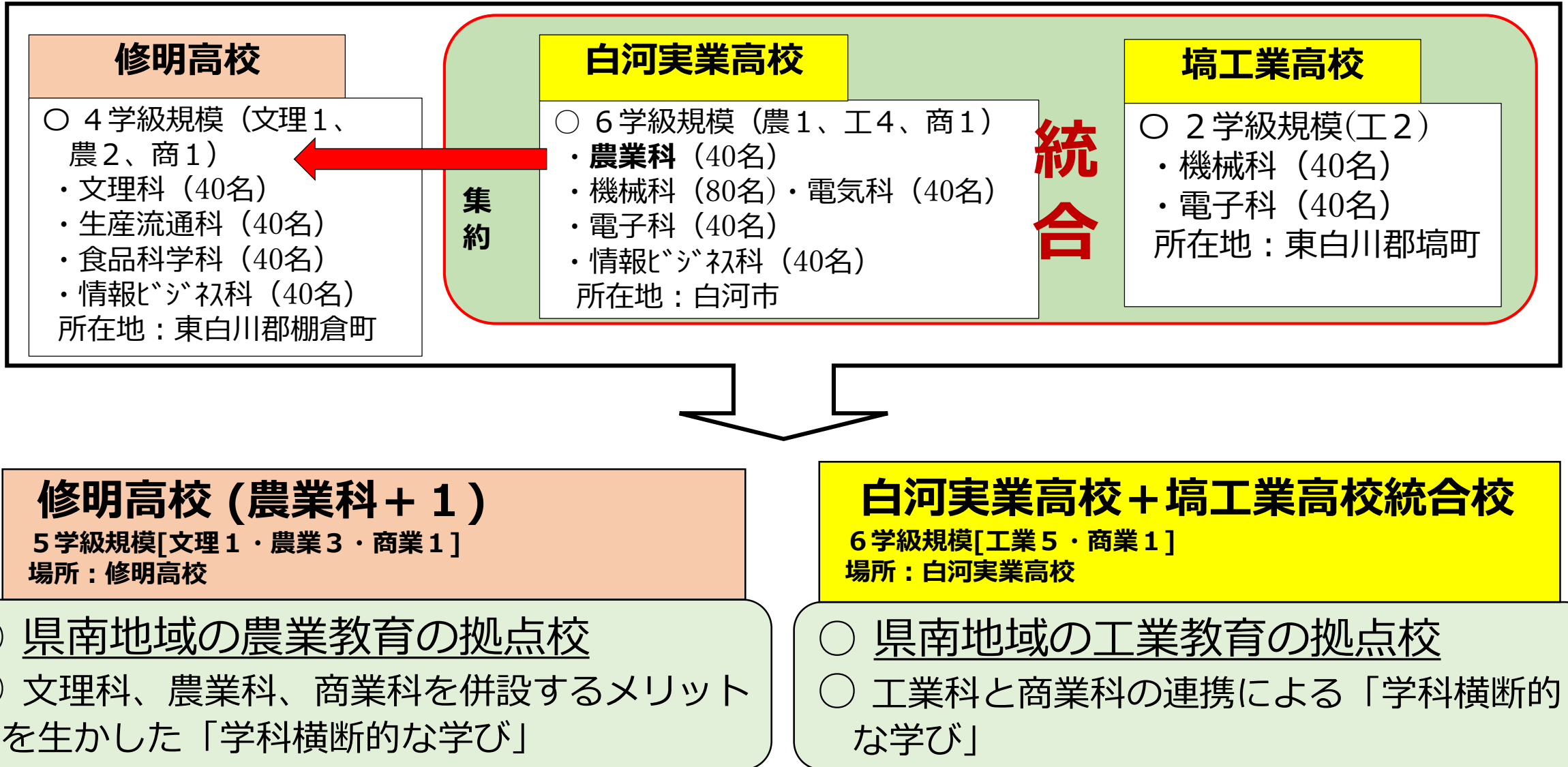


16 平成30年3月県南地区中学校卒業者の高校進学先 (平成29年度卒後の進路調査より)

	数卒業者	数進学者	埴工業	修明	鮫川	白実	白河	旭	石川	光南	岩農	公立内	定・通	学石	私立その他	県外	高専等
白河旧市内中学校	475	468		14	4	116	111	87	1	32	6	15	8	10	45	12	7
表郷	51	51	1	8		18	5	10		1				1	2	4	1
東	68	68		10		9	8	7	1	9	2	5	1	10	4	2	
大信	51	47				8	10	4	1	8	2	6		1	5	1	1
西郷村内中学校	192	188		9		40	34	34		21	11	9	4	3	20	6	2
棚倉	123	122	5	37	7	10	16	16		10		2	2	9	6	1	1
埴	74	73	18	17	2		6	8		2		3		13	1	2	1
矢祭	44	43	3	11	2		5	4		4		1		7	4	1	1
鮫川	29	29		6	6	1	1		3		1	4		3	3		1
浅川	65	65	4	4		7	8	3		1		12		17	8	2	
石川	147	144	1	6	2		1	2	24	8		27	3	47	18	1	4
計	1319	1298	32	122	23	209	200	175	30	96	22	84	18	121	115	32	19
進学者に対する割合(%)			2.5	9.4	1.8	16.1	15.4	13.5	2.3	7.4	1.7	6.5	1.4	9.3	8.9	2.5	1.5

III 今後の再編整備の方向性について

17 再編整備の方向性



白河実業・塙工業統合校（案）のイメージ図

職業教育推進校

県南地域の工業教育と商業教育の拠点校

高い専門性を身に付けるための教育活動により、地域産業を支える核となる人材を育成

- 2校の学びの継承と充実
専門的な技術を身に付けさせるための丁寧な指導
「資格取得」「工業の各種大会参加」等
- 職業人としての資質を育成するキャリア教育の充実
インターンシップの充実
- 工業科と商業科の連携による学科横断的な学び
- 地域と協働した取組により地域活性化に貢献

検討する統合校の特色化

専門的な技術・技能
の指導

工業と商業の
連携した学び

主体的・対話的で
深い学びの実現

地域の産業界と密着した
探究的・実践的な学び
の導入

丁寧な
キャリア教育

修明高校の再編整備のイメージ図

職業教育推進校

東白川郡唯一の高等学校として、各学科の特色を生かし、地域と連携した教育活動により、地域を支える核となる人材を育成

- 生徒の多様な進路希望に対応した丁寧なキャリア教育
- 地域と連携した教育活動（地域課題探究活動の実践）
- 農業教育と商業教育の推進により、高い専門性を養成
- 文理科における個に応じたきめ細かな指導による進路希望実現
- 学科間連携の探究的学習の実践

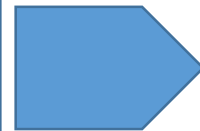
農業科の集約による学びの充実と広がり

農業科 1 学科単独・・・農業生産に係る基礎的な学習が中心



農業科

生産流通科



食品科学科



商業科

情報マネジメント科

作物・野菜・果樹
・草花・農業経済・
畜産・動物科学

育てる

農業生産に係る各分野を網羅・深化

食品製造・微生物利用・食品科学・食品流通・栄養（家庭科）

つくる

マーケティング・商品開発・広告と販売促進・ITマーケット
・・・修明笑店の取組

販売する

6次産業化や地域との連携を推進

検討する修明高校の特色化

県南地区の農業の振興
のための農業科の充実

農業科・商業科・
文理科の連携した学び

地域をフィールドにした
探究的な課題解決型学習に
よる地域貢献の意識の醸成

各学科の特徴を生かした
東白川地域との連携した
取組

丁寧なキャリア教育に
よる進路希望の実現
(進学・就職)

18 今後の予定

会議等のスケジュール

第1回改革懇談会

5月29日(埴工業関係者との懇談会)

7月26日(白河実業関係者との懇談会)

第2回改革懇談会 年内(以降必要に応じて開催)

今後必要となる組織

改革懇談会でいただいた御意見を具現化するための組織

- 教育内容検討委員会(両校の教職員で構成される検討委員会)
- ワーキンググループ(各校の校内検討委員会)